

## 第4章

# 質問紙調査の分析

### ねらいと見方

学習指導や生徒指導、家庭への働きかけ等に活用できるよう、質問紙調査の内容や教科に関する調査とその関係などを分析したものです。

ここで取り上げた内容については、日ごろお感じになっていることと近いことだと思います。ですから先生方に置かれては、これらのデータも根拠の一つとして、自信をもって指導に当たっていただければと思います。

### 活用方法

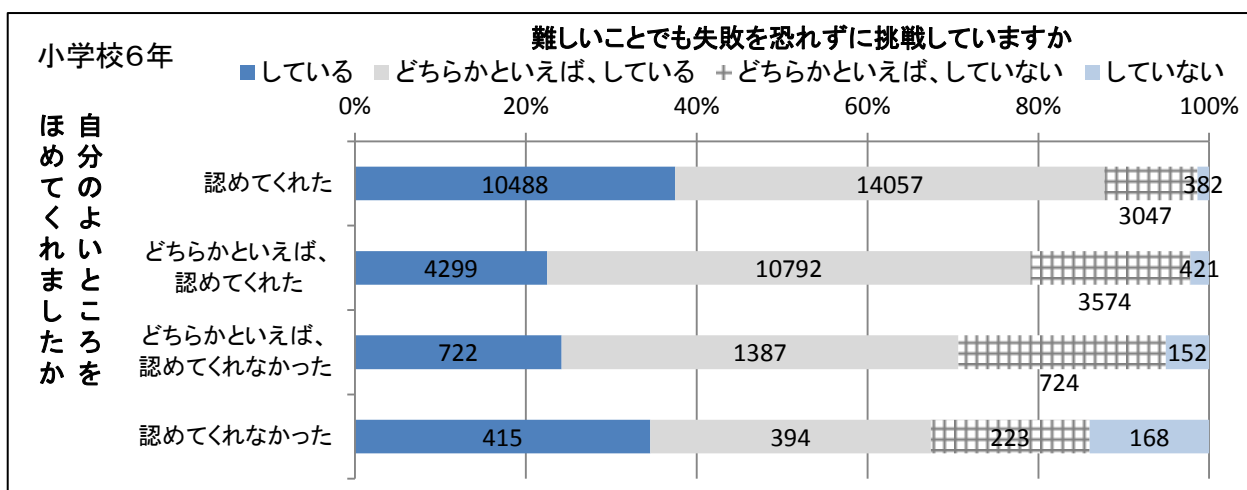
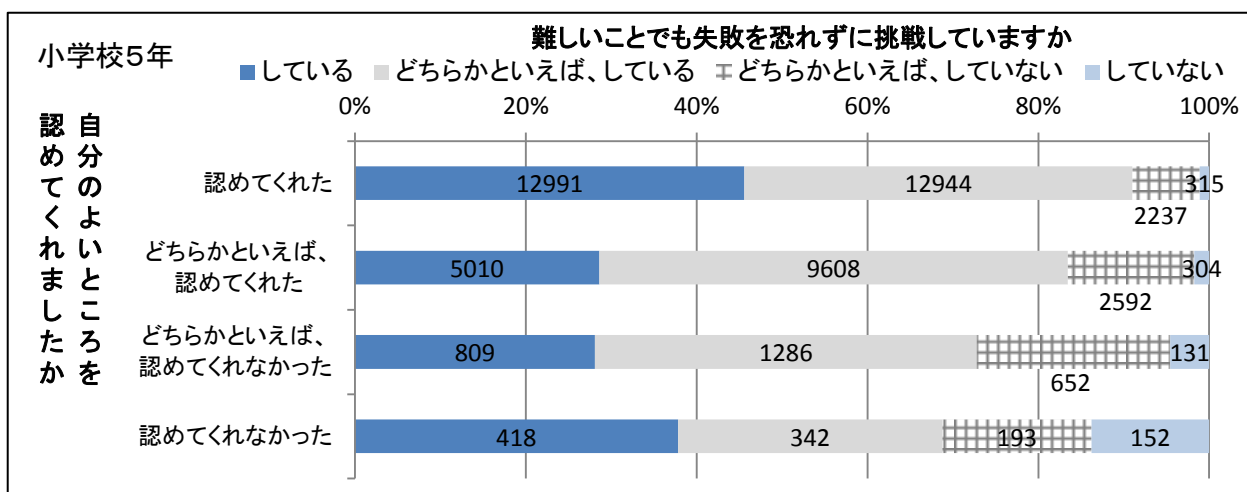
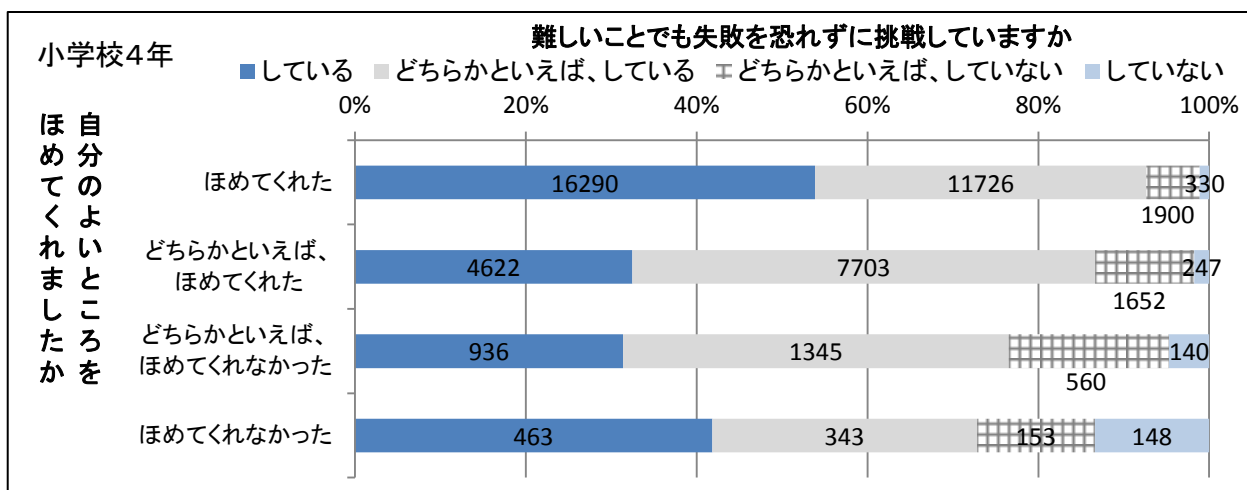
- 校内研修や保護者だよりの資料として活用いただけます。

# 1 「教員との関係」と「自分に対する考え」との相関

## 【概要】

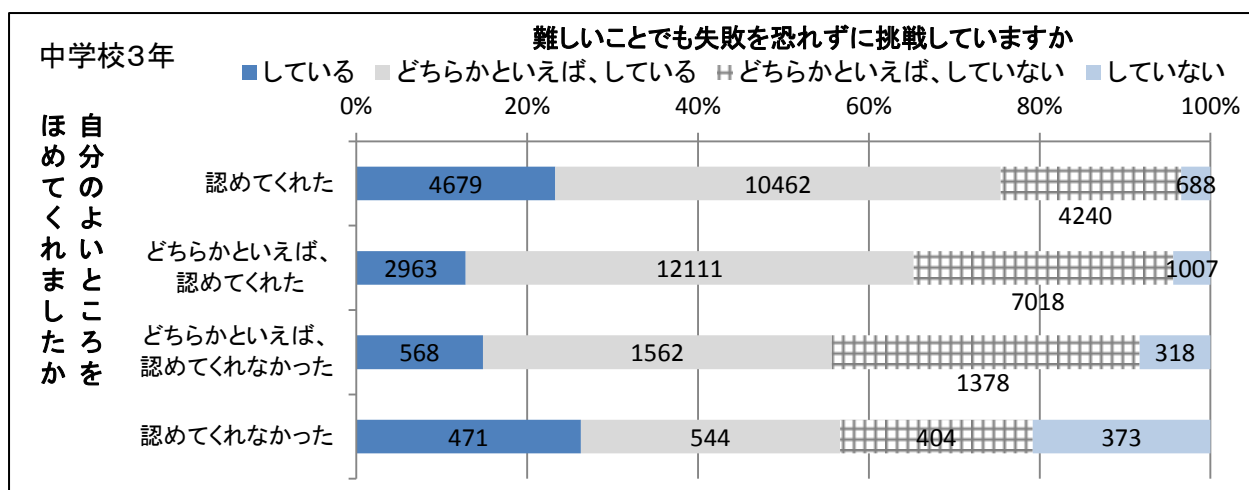
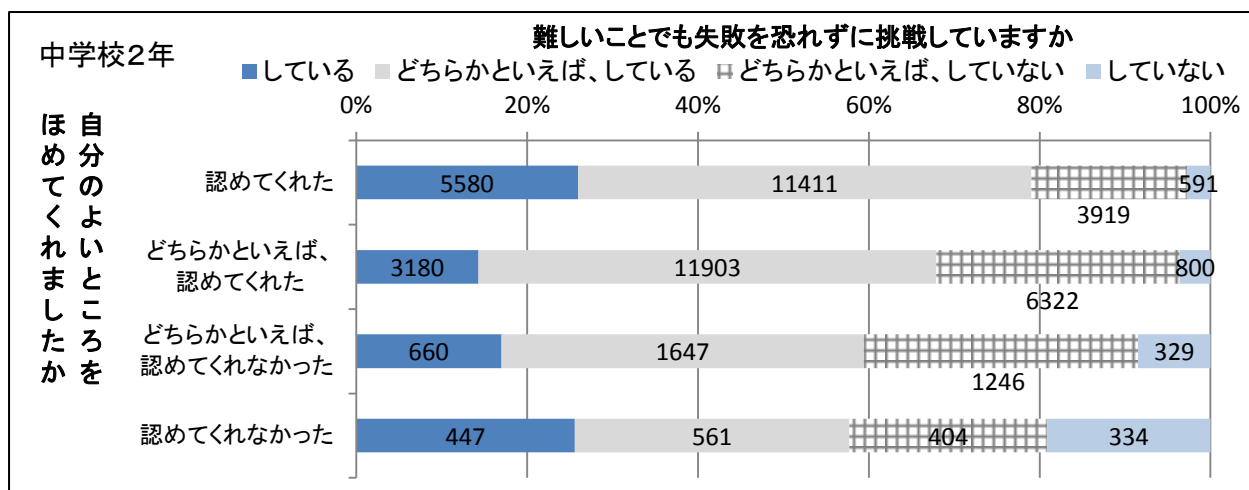
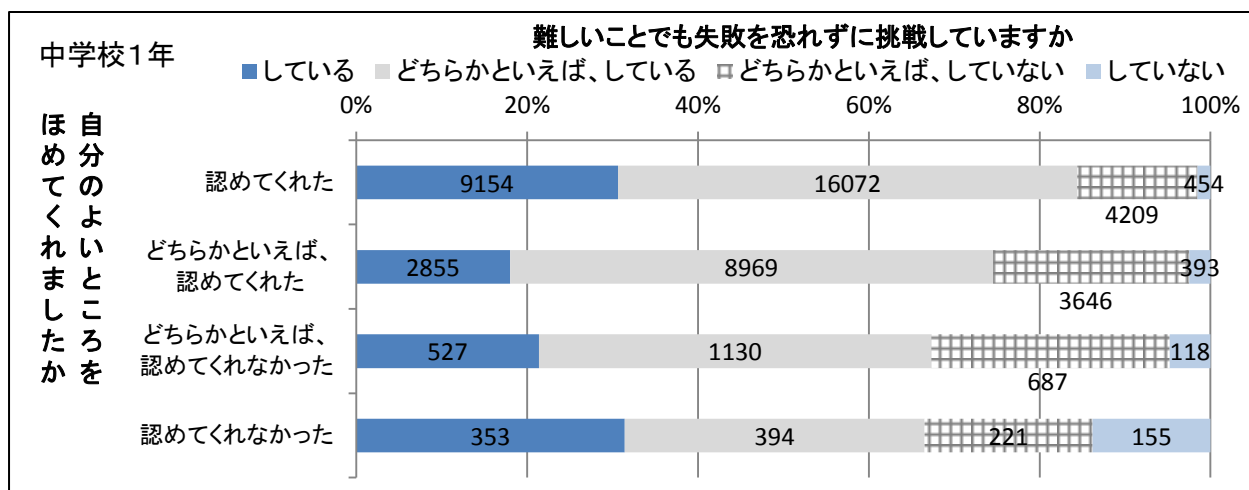
各学年を通じて、教員が「認めてくれた」「どちらかといえば認めてくれた」という実感を持つ子供ほど、自分自身について「難しいことでも失敗をおそれずに挑戦している」と回答する傾向がある。

なお、小学生の80%以上、中学生の68～80%は、教員から認められていることに対して肯定的に回答している。



## 【先生方へのメッセージ】

- 行動力を支えるのは、自己有用感や自信です。
- 子供は認められることによって、自己有用感や自信を高めていきます。
- 子供たちを多面的に捉え、機を逸することなく自信を持たせる言葉をかけましょう。

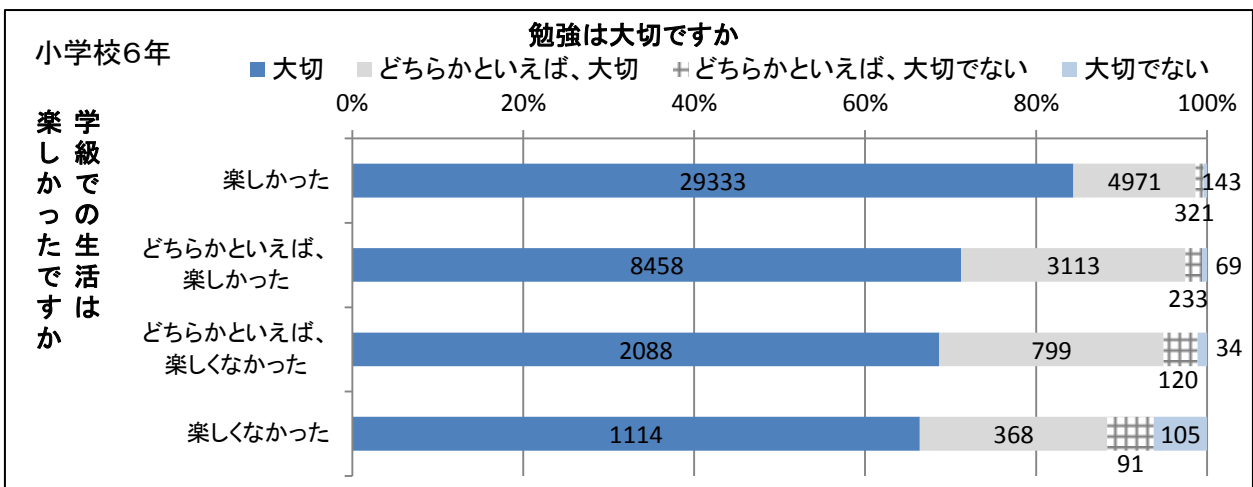
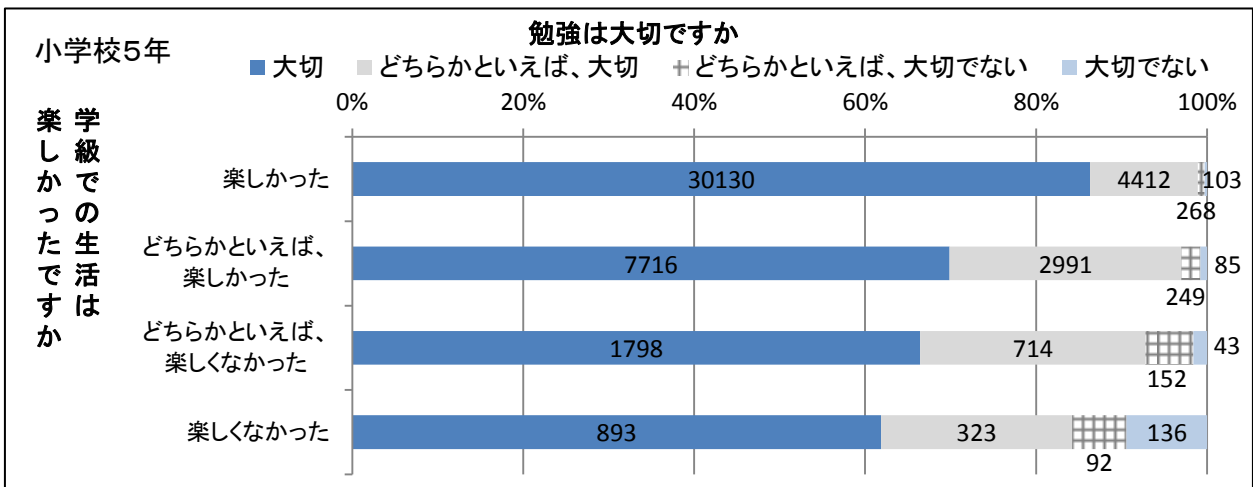
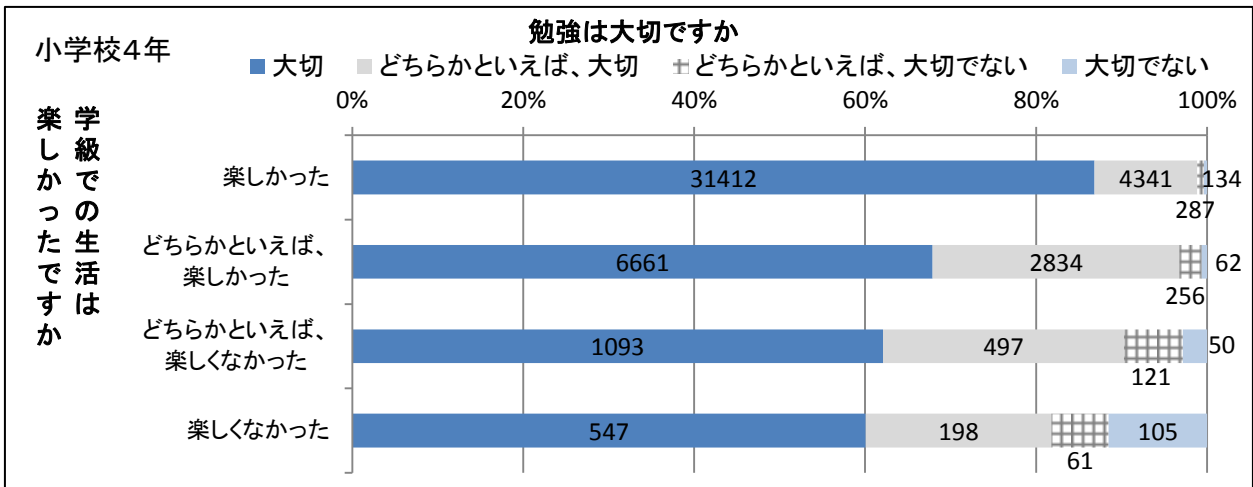


## 2 「学級の雰囲気」と「学習意欲」に関する相関

### 【概要】

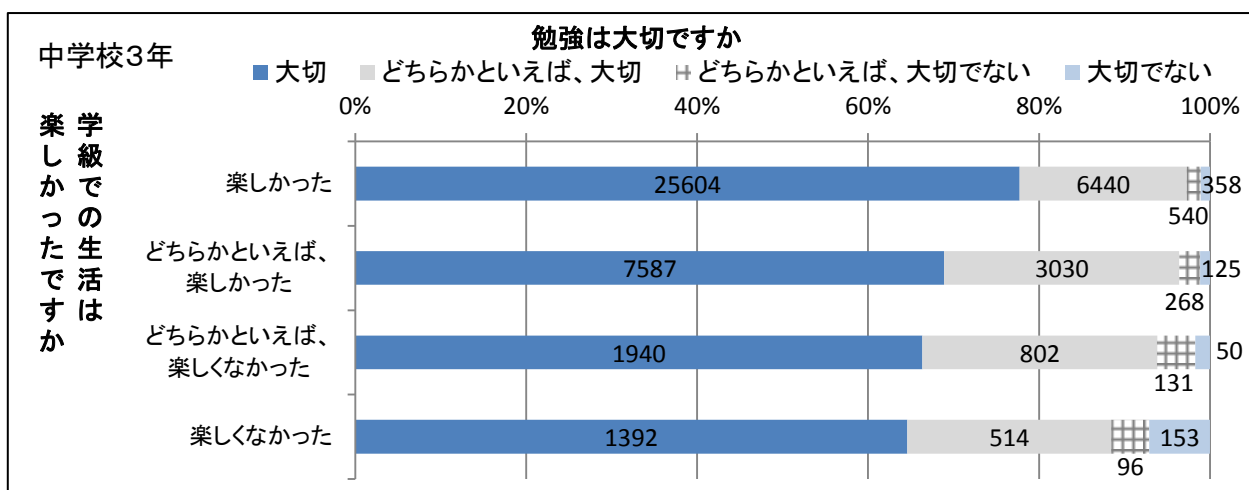
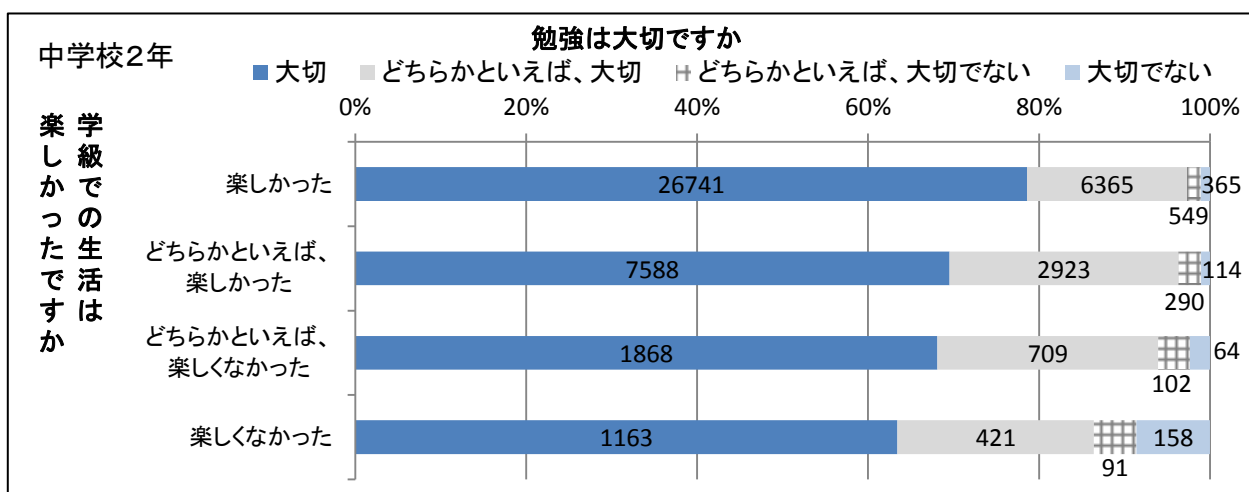
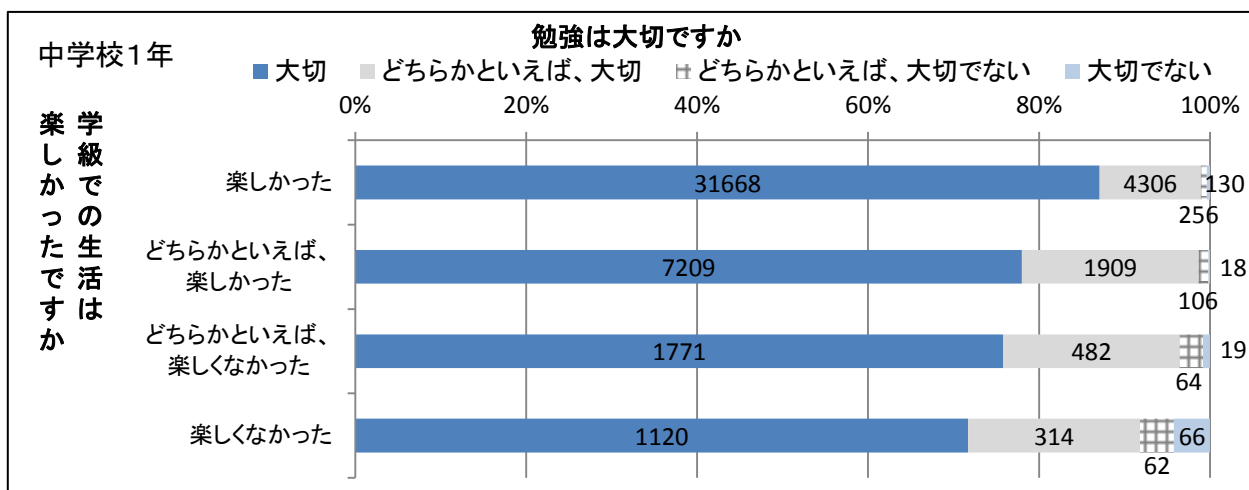
各学年を通じて、「学級での生活が楽しかった」と回答する児童生徒は、「勉強が大切」と回答する傾向がある。

なお、児童生徒の大半が「勉強が大切」と考える傾向も各学年で共通している。



## 【先生方へのメッセージ】

- 教員と子供の信頼関係が構築され、安心・安全な学級は、子供たちの心を安定させ、じっくり落ち着いて学習する雰囲気醸成します。
- 学級づくりの充実は、学力向上にも効果があります。子供たちが楽しいと感じる学級づくりに日々取り組みましょう。

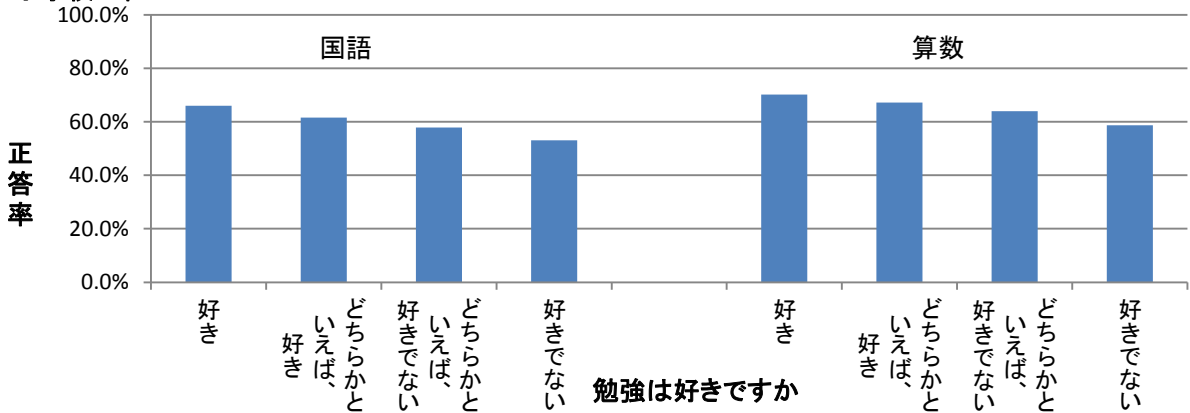


### 3 「学習意欲」と「教科に関する調査」に関する相関

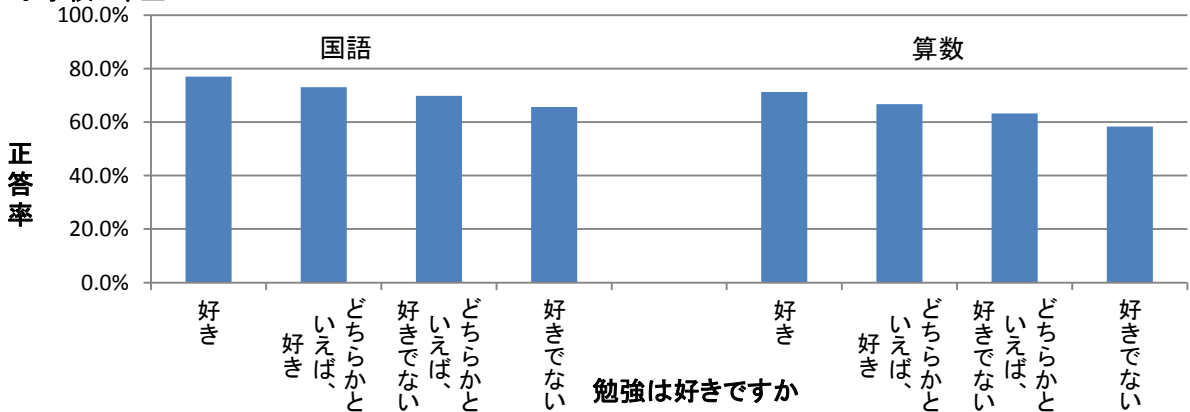
#### 【概要】

各学年を通じて、「勉強が好き」と回答する児童生徒は、教科に関する調査の正答率が高い傾向があり、また、「好きでない」と答えた児童生徒との正答率の差は学年が上がるに従い広がる傾向にある。

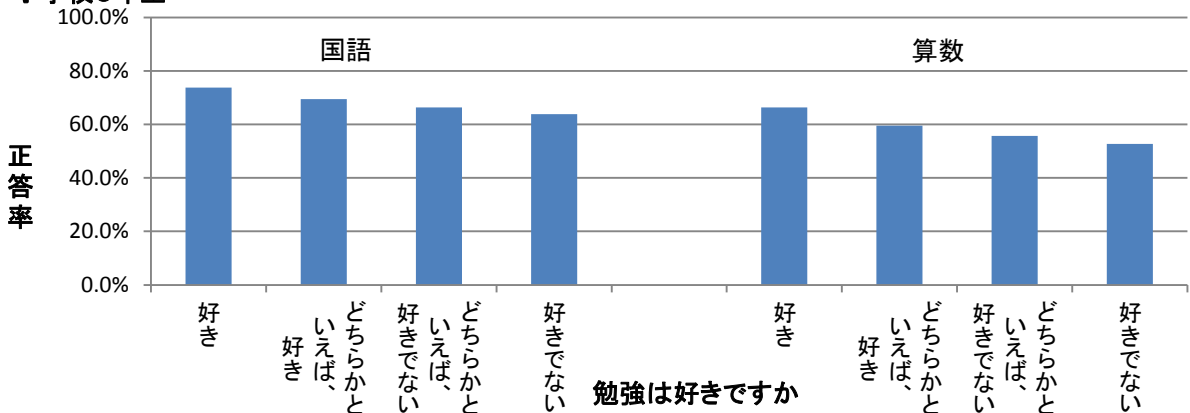
小学校4年生



小学校5年生

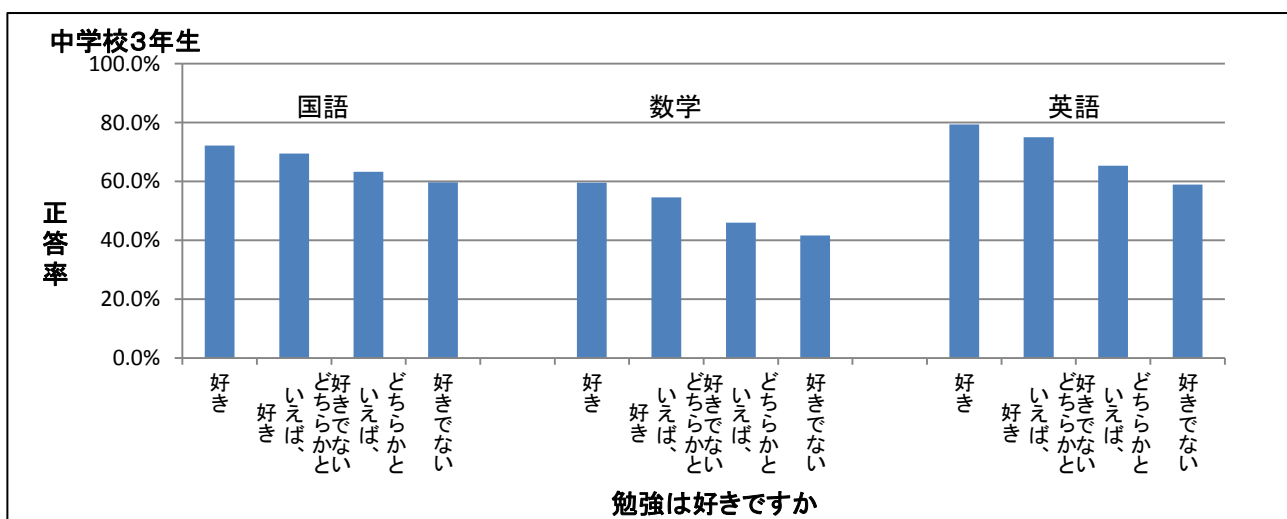
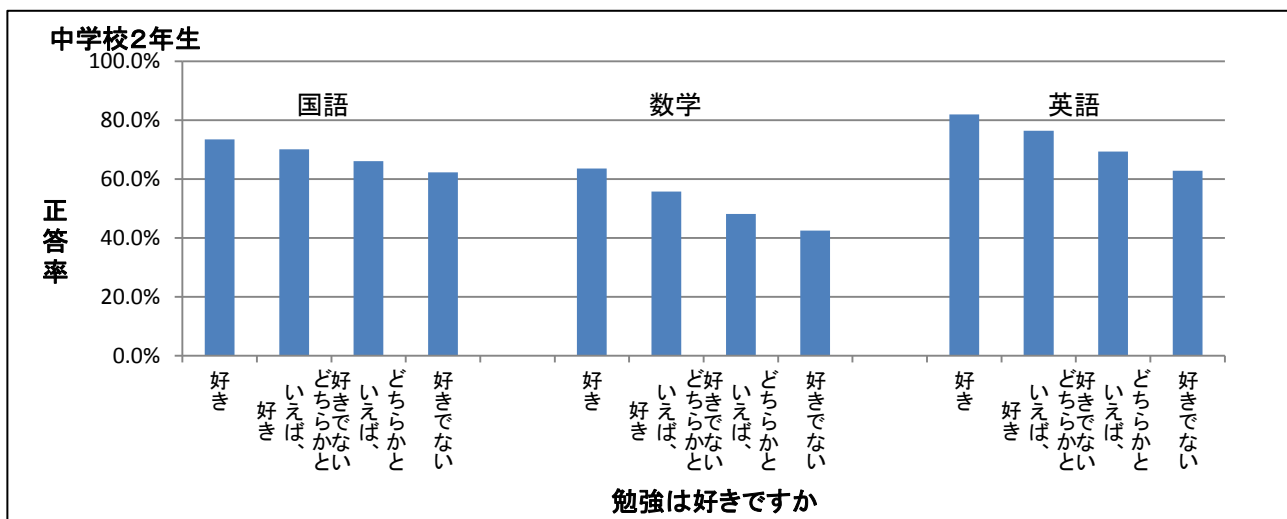
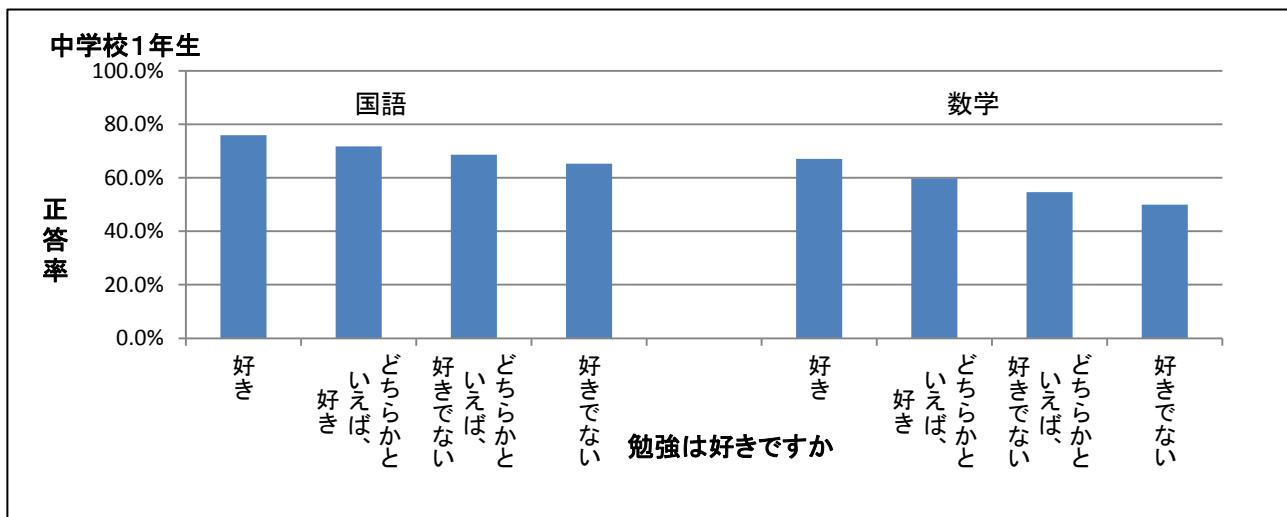


小学校6年生



## 【先生方へのメッセージ】

- 授業の中で「何が分かるようになり、何ができるようになるのか」を明確にすることで、子供たちの「分かること、できること」が蓄積され、学習内容が定着されます。
- 教師が子供たちの成長をしっかりと見て、一人一人の子供たちを認め、ほめることにより、子供たちは自信を持つことができます。自信を持った子供たちは、新たな目標に向かって意欲的に取り組むようになります。



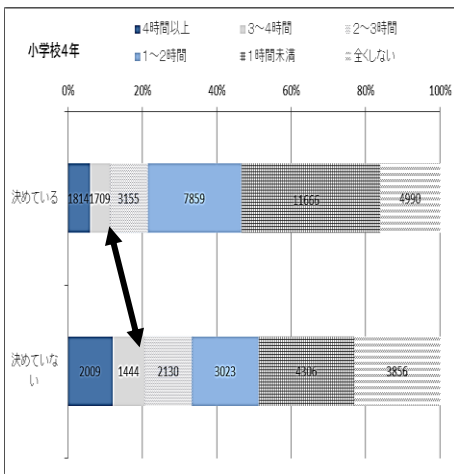
# 4 「家庭での生活習慣」に関する相関

## 【概要】

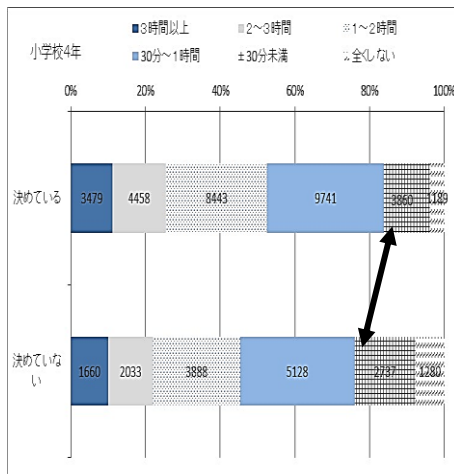
各学年を通じて、テレビゲーム等について「家の人と約束を決めている」と回答した児童生徒は、長時間テレビゲーム等を行うことが少なく、また、家庭学習の時間を確保している傾向がみられる。

なお、長時間テレビゲーム等をしている児童生徒は、教科に関する調査の正答率が低い傾向にある。

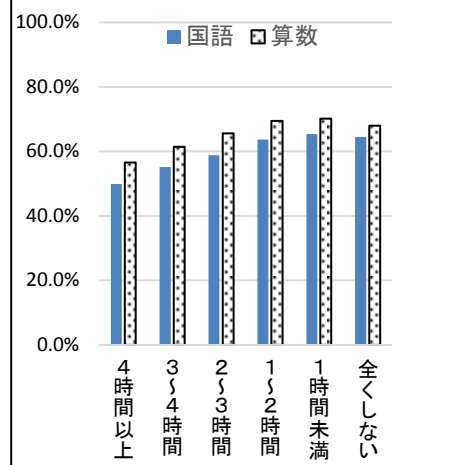
テレビゲーム等の時間(月～金)



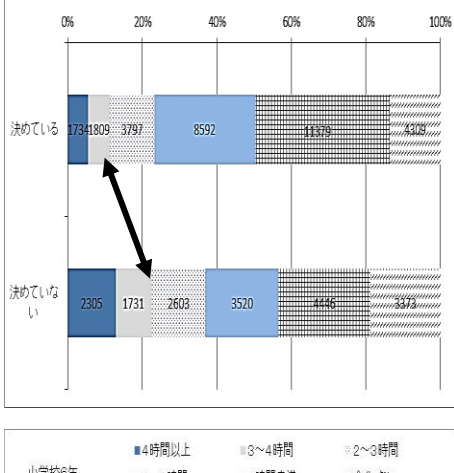
家庭学習の時間(月～金)



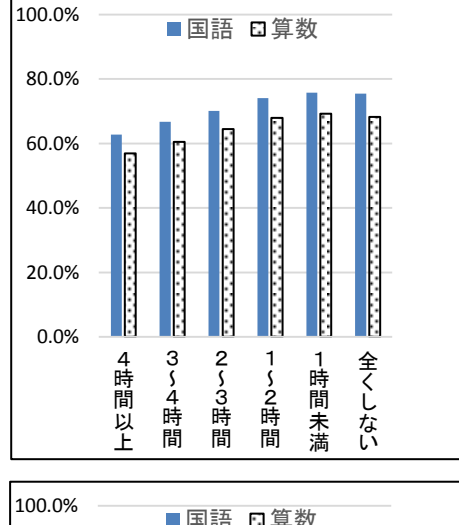
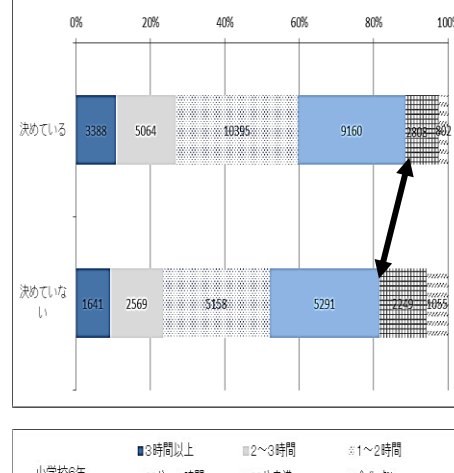
テレビゲーム等の時間と教科に関する調査との関係



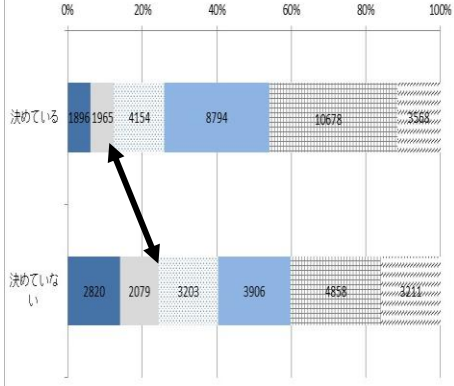
テレビゲーム等の時間(月～金)



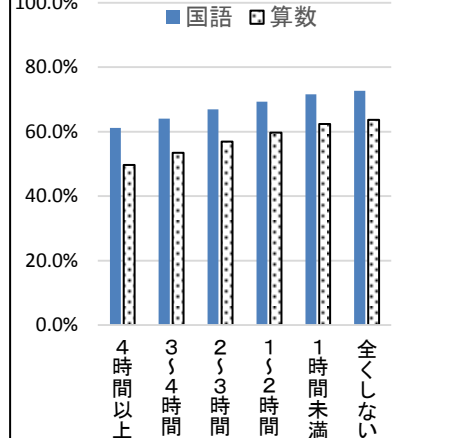
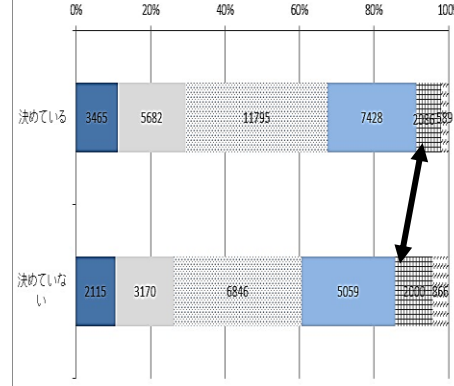
家庭学習の時間(月～金)



テレビゲーム等の時間(月～金)



家庭学習の時間(月～金)



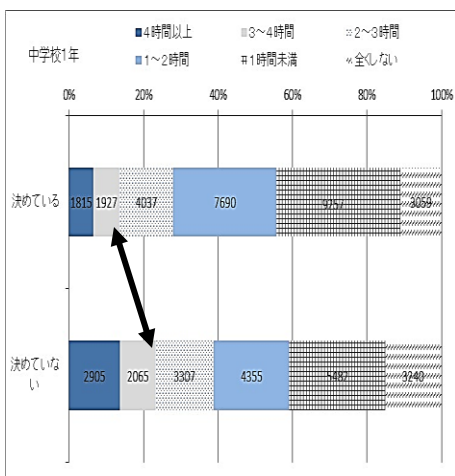


## 【先生方へのメッセージ】

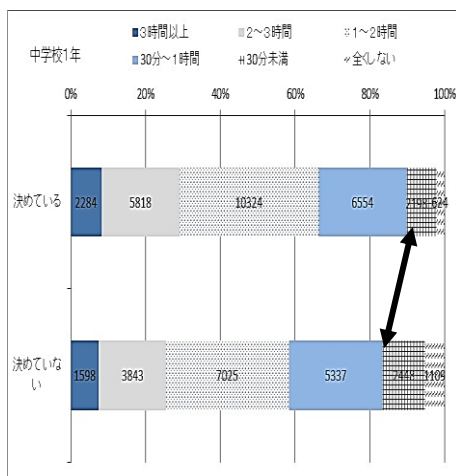
○ 子供たちが自分一人で家庭での学習習慣を作り上げるのは難しいことです。学校と家庭が連携し、子供たちが生活を見直すきっかけづくりをしていきましょう。

○ テレビゲーム等を行う時間について約束するときは、ただ約束を決めるのではなく、「なぜ約束をするのか」その必要性についても確認することで、子供が主体的に約束を守ろうとする態度を育むことにつながります。

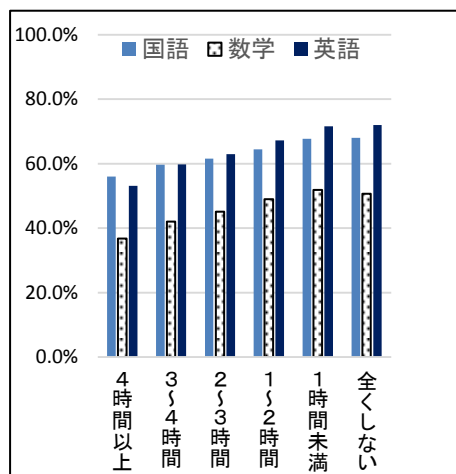
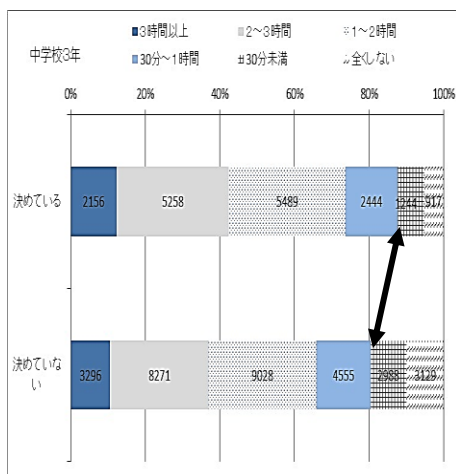
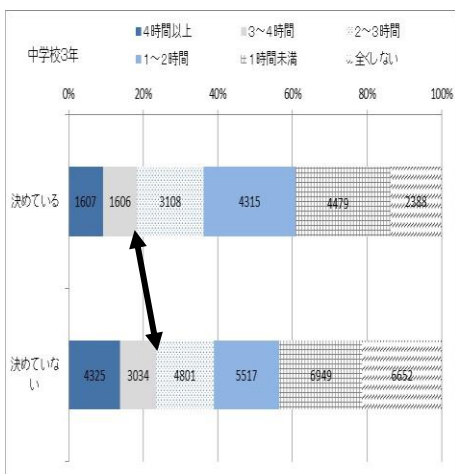
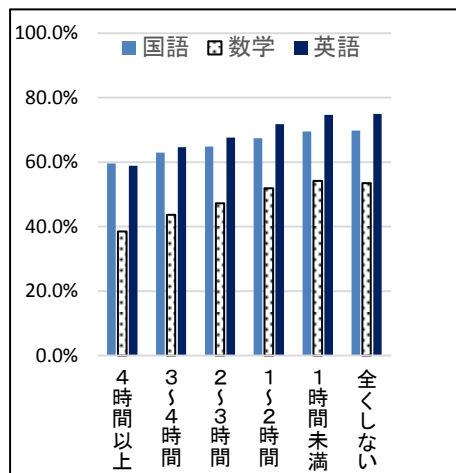
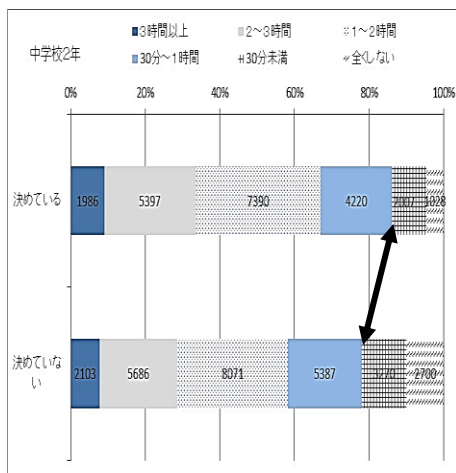
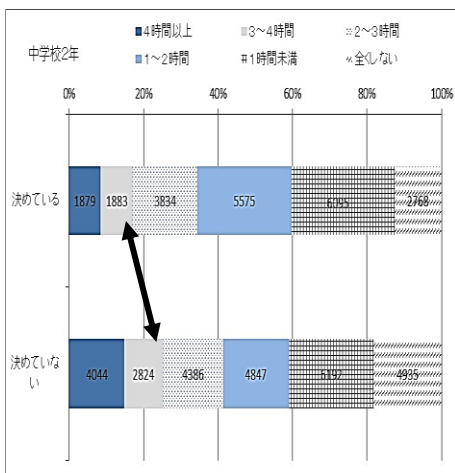
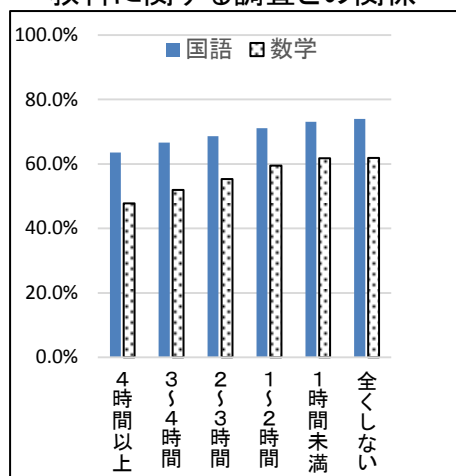
### テレビゲーム等の時間(月～金)



### 家庭学習の時間(月～金)



### テレビゲーム等の時間と教科に関する調査との関係

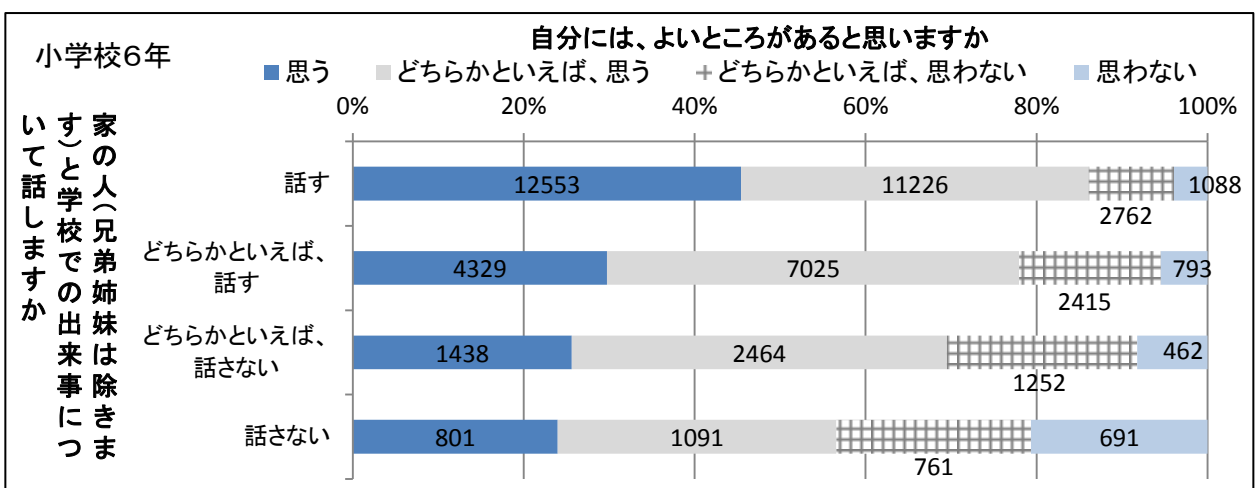
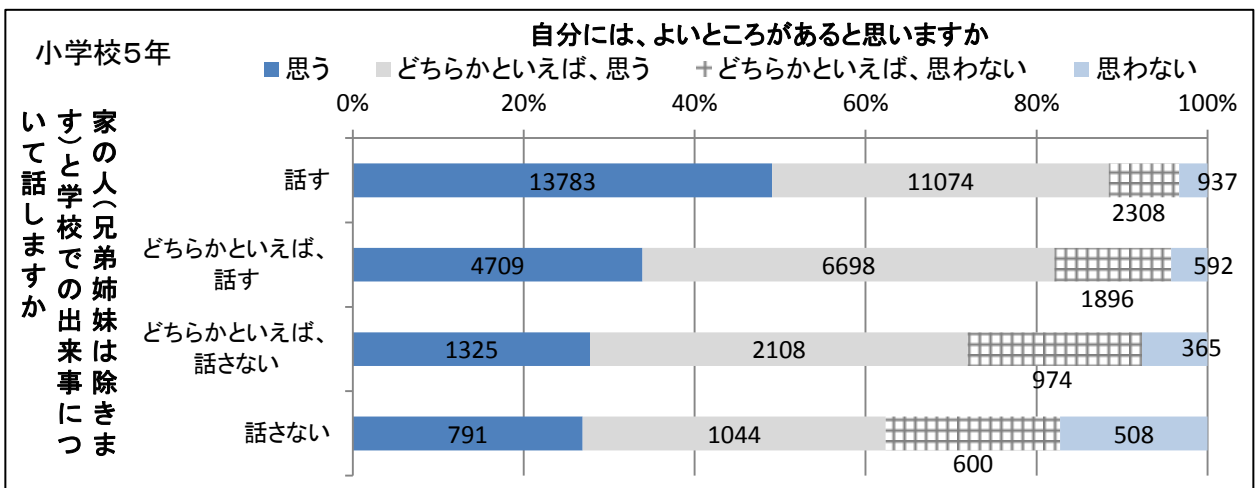
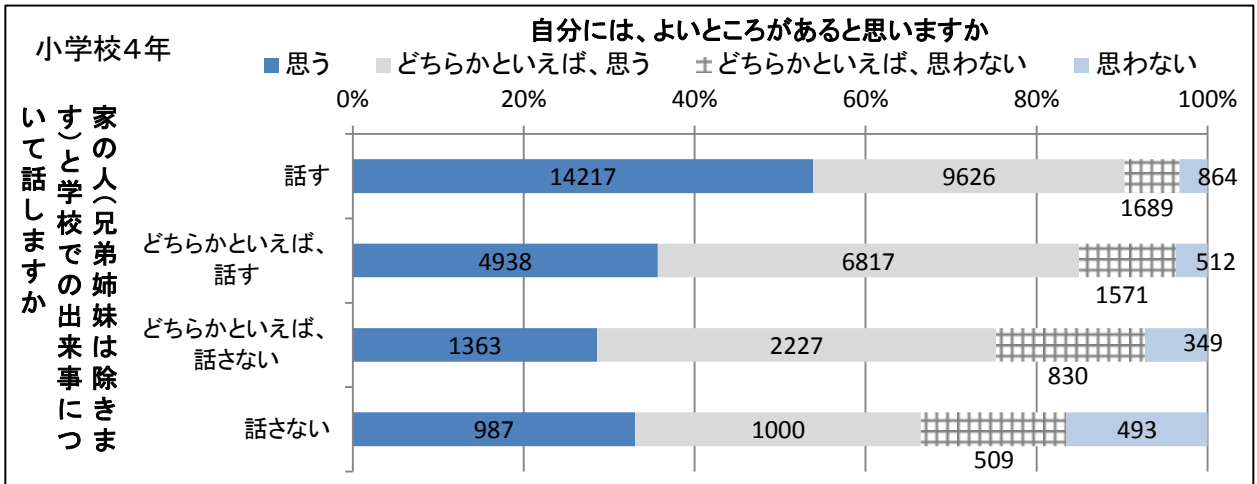


## 5 「家庭での様子」と「自己肯定感」に関する相関

### 【概要】

各学年を通じて、「家の人と学校での出来事を話す」と回答する児童生徒は、「自分にはよいところがあると思う」と回答する傾向がある。

なお、「自分にはよいところがあると思う」、「どちらかといえば、思う」と回答する児童生徒の割合は、小学校で80%、中学校では、1年生で78%だが、3年生では68%となっている。



## 【先生方へのメッセージ】

- 学校での出来事を家庭で話すことで、学習や学校生活を改めて振り返ることができます。
- 学校でも家庭でも、子供たちが自分のよさに気付くために「いいところ探し」ができるように働きことも有効です。よさに気付き、よさを伸ばし、よさを活かすことで自ずとウィークポイントも改善されていきます。

